

## 平坦地における収穫ネットを活用した クリ収穫作業の省力化

クリ栽培では、収穫作業に大きな労力を要しますが、生産者が高齢化している等の理由から省力化が求められています。すでに傾斜地では、ネットを利用した収穫作業の効率化技術が確立していますが、平坦地では確立していません。熊本県農業研究センター球磨農業研究所では、平坦地でのネットを利用した収穫作業の省力効果を明らかにしたので紹介します。

### ☆技術の概要

1. 幅2m、長さ25m、4～6mmメッシュのネットを利用し、一端の高さを70～80cmで設置した場合、毬がネットの途中で止まることなく植栽通路の中央に集まり、収穫作業面積が集約できます（図1）。
2. 上記の通りネットを設置すると、植栽距離4m×4mでは慣行と比較して収穫時間を約28%削減でき、植栽距離10m×10mでは15%削減できます（表1）。
3. 植栽距離4m×4mの場合、収穫ネットの設置時間は、設置初年度に10a当たり6時間程度かかりますが、使用後に主幹部分に寄せておくことで2年目以降は10a当たり45分程度となります。また、設置に要する資材費は、10aあたり42,000円程度です。

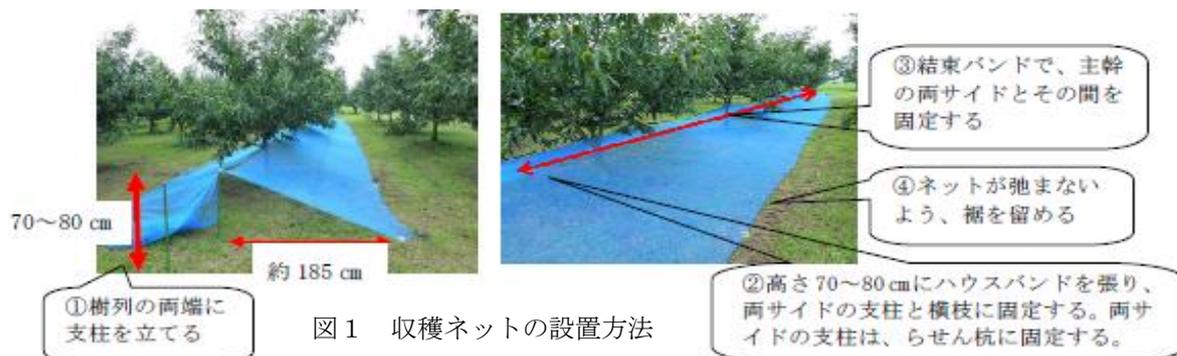


図1 収穫ネットの設置方法

表1 収穫方法の違いによる収穫所要時間

収穫方法	4m × 4m 植栽		10m × 10m 植栽	
	収穫時間 (秒/100果)	比較 (%)	収穫時間 (秒/100果)	比較 (%)
慣行	180	100	200	100
収穫ネット	130	72.2	170	85.0

注1) 調査面積は4m×25m=1a(4m×4m植栽)、10m×30m=3a(10m×10m植栽)

注2) 4m×4m植栽は「ぼろたん」の8年生樹、10m×10m植栽は「筑波」の48年生樹を供試した

### ☆活用面での留意点

1. 本成果は球磨農業研究所（熊本県球磨郡あさぎり町）において、平坦地に植栽してある植栽距離4m×4mの8年生樹と植栽距離10m×10mの48年生樹で実施して得られたものです。
2. ネット幅3mでは、設置高80cmでも毬がネット途中で留まるため、利用するネットは幅2mが適しています。
3. 詳細については熊本県農業研究センター球磨農業研究所（0966-45-0470）にお問い合わせください。

（農研機構果樹茶業研究部門 研究推進部 果樹連携調整役 大崎 秀樹）